



ごあいさつ

地域の皆さまには、平素より西中国信用金庫に格別のご愛顧を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

おかげをもちまして、当金庫は、明治42年5月の創業以来、本年で117年目を迎えることができました。この間、地域経済や金融環境が大きく変化する中、当金庫は地域とともに歩む協同組織金融機関として、地域の発展に貢献することを使命として取り組んでまいりました。

今年度も当金庫へのご理解を一層深めていただきたく、ディスクロージャー誌「2026 にししんのご案内」を作成いたしましたので、ご高覧いただければ幸いです。

さて、わが国経済は、緩やかな回復基調にある一方、物価上昇や金融政策の転換、緊迫する国際情勢や海外経済の不確実性などを背景に依然として先行きは不透明な状況が続いています。

地域経済においては、原材料価格や人件費の上昇、人手不足の深刻化などにより、多くの事業者が厳しい経営環境に直面し、特に金利ある世界への移行は、中小企業にとって大きな環境変化となっております。

地域で最も身近な金融機関である信用金庫においては、お取引先の課題解決や持続的成長に向けた伴走支援の一層の強化が求められています。

このような経済・金融環境のもと、令和7年度は、「地域社会・顧客の発展に繋がる支援力・営業力・組織力の強化」、「金庫組織体制・営業態勢の強化」、「職員人材力の強化」、「業界総合力の発揮」を重点戦略として、金融仲介機能を強化し、適切な業務運営および経営効率の向上に取り組んでまいりました。また、伴走型の本業支援や資金繰り支援、創業・

事業承継支援等に積極的に取り組むとともに、業務効率化やサービス品質の向上にも努めてまいりました。

令和7年10月には、当金庫が目指す姿、目指す方向性、また役職員の共通の価値観とする「にししんWay」を策定し、「にししんWay」を軸とした新たな価値創造を目指して、職員一人ひとりが主体的に行動することで地域・お客さま・役職員の三者価値の向上に取り組んでまいりました。

令和8年度は経営3か年計画の最終年度として、成長・発展に向けた変革を実現する重要な事業年度と位置付けています。安定した収益力と将来に亘る健全性の確保に向けて、ガバナンスの強化、営業態勢の強化、生産性の向上、収益基盤の一段の底上げを図るとともに、経営環境の変化に的確に対応しながら、「にししんWay」を浸透させ、地域における価値創造を一層推進してまいります。また、信用金庫の強みである「Face to Face」による信頼関係の構築を基盤としつつ、デジタル技術を活用した業務改革(DX)を推進し、営業活動の高度化と顧客理解の深化を図ることで、より付加価値の高い金融サービスの提供に努めてまいります。

引き続き厳しい経営環境が予測されますが、“にししん”は、相互扶助を目的とした協同組織の金融機関として「にししんWay」を歩み、役職員が一丸となって地域の活性化、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいり所存でございます。今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和8年7月

理事長 池上 弘